

# 校長室だより

令和2年10月16日 No30

大田区立入新井第五小学校

校長 岡野 範嗣

●●●● 「油断しないように」子どもたちに話しました。 ●●●●

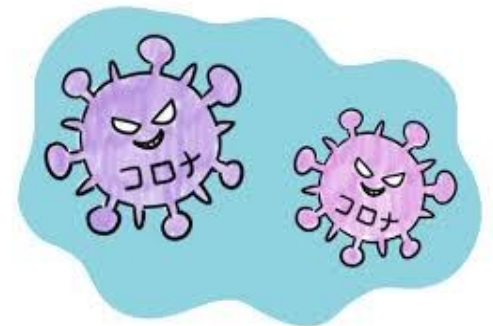


今週の月曜日の全校朝会は、子どもたちを校庭に座らせ、「コロナウイルスに感染しないよう、油断してはいけない。」という話をしました。ここのところ、東京のGoTo～解禁に加え、PCR検査が比較的容易にできる環境が整ったこともあって、日本全体がコロナに感染してもどうにかなるのではないかといった感じを強く受けます。一方、ヨーロッパでは、コロナウイルス感染が再び急速に広がり、フランス・イギリス・スペインでは、新たに確認される感染者が1万人を超える日が続くなど、4月ごろの第一波

を上回る水準に、地域を限定して外出制限をする可能性も広がっています。

常に先を見越して早め早めの対策を講じなければいけない学校としては、対岸の火事といった感覚ではられません。正直なところ、子どもたちも運動会が終わり、さらに長い2学期の中だるみも加わってか、少し気の緩みを感じられます。手洗いを面倒がる子、給食を食べ終わるとしゃべり始める子、マスクから鼻が出ている子、友達と話するときの距離が近すぎる子……。

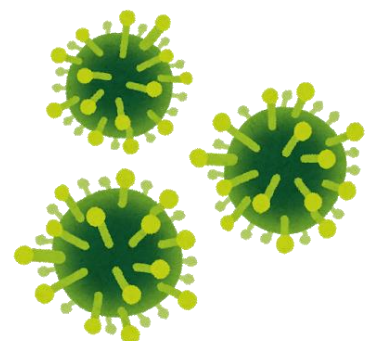
仕方ないといえば仕方ないことなのかもしれませんが、ここで気を緩めては、今まで皆で気をつけてきたことが無駄になってしまいます。そこで冒頭の話に戻りますが、全校朝会でじっくりとお話をしたわけです。



① みんな、なぜマスクをして学校生活を送っているのか、もう一度理由を考えてみましょう。

コロナウイルスは喋るときに口から飛沫となって相手のところに飛んでいき、その飛沫を相手が吸い込んでしまうことで感染してしまいます。ですから、相手に飛沫を飛ばさないように、また、相手から飛んできた飛沫を吸い込まないようにマスクをしているのですよ。マスクを外していたり、鼻が隠れていなかったり（吸い込まないように）しないよう、一人一人がしっかり意識しなくてははいけません。

② 新型コロナウイルスは、まだ完全に治る病気であるとは言えません。ある人は感染していても、高熱になる、息苦しくなる、といった症状が全く出ない場合があります。しかし、その人のウイルスから感染した人が、高熱に苦しんだり、入院しなければならなかったりすることは珍しくありません。場合によっては命を落とすこともあるのです。新型コロナウイルスは、やはり怖い病気であることを、皆さんがしっかり覚えておかなければはいけません。





③ いま、おうちの中で感染することがとても多いそうです。皆さんの家族の中には、感染した時に病気がとても悪くなってしまいやすい、おじいちゃんやおばあちゃんのいるうちもたくさんあります。また、お父さんやお母さんなどおうちの中には、他の病気と闘うため、毎日お薬を飲んで生活している人もいます。そういう人が感染してしまうと、それこそ命にかかわることもあるのです。

さあみなさん、今、お話したことをじっくり考えてみてください。校長先生が、皆さんに一番伝えたいことは、「**油断をしてほしくない**」ということなのです。自分を守ることと、他の人を守ること。ととても大事なことだということを、改めて感じ取って行動をしてください。

これが、私の全校朝会のお話です。子どもたちは、シーンとしてみな真剣に聞いてくれました。今週は、少しコロナウイルス感染防止について考えた行動がとれるようになったように思います。来週以降も、この気持ちが薄れないことを願っています。

## ●●●● コロナウイルス？インフルエンザ？風邪？ ●●●●

10月になり、日中は気温が上がる日もありますが、ジメジメとした湿度を感じることは、ほとんどなくなりました。この快適で過ごしやすい時期は意外と短く、すぐに空気が乾燥する寒い季節

がやってきます。スーパーコンピューター「富岳」による、湿度別「飛沫感染シミュレーション画像」が数日前に発表されました。やはり、空気が乾燥すると飛沫は遠くまで拡散し広範囲にまき散らされる様子がよくわかります。色のついたウイルス拡散画像を見ると、マスクをとる食事のときなどは本当に気を付けなければと改めて感じます。GoTo イートで外食も増えるでしょうし、今後、感染者数が増えないことを願うばかりです。また、学校では、これから風邪やインフルエンザによる発熱や咳などの症状も見られるようになり、



益々、コロナウイルスに感染した症状との見分けがつけにくい状況が発生します。まずは、「咳」・「たん」・「鼻水」を、きちんと処理することが大切だと考えます。もうすでに、鼻をかんだりする児童もいることから、本校では、大田区の「ウイルス感染マニュアル」にある、「普通ごみ」と「咳・たん・鼻水のついたティッシュごみ」や「汚れたマスク」を、きちんと分別して処分する対策を講じました。写真のごみ箱を各教室、専科教室、人の集まる玄関等に設置します。また、そこには薄いビニール袋を置き、授業中はその袋に一時的に用の済んだ



ティッシュをためるようにさせます。休み時間に、ビニール袋ごと、専用ごみ箱に入れるようにさせ、専用ごみ箱に溜まったごみは、学校のスタッフ（教員等）が、消毒および廃棄を行うようにし、他の児童に触れないように致します。これで、掃除の時間のごみすて作業や、普通ごみを捨てる際の感染リスクがかなりの確率で防御できるように思います。今後も、感染拡大防止に緊張感をもって取り組んでまいります。